

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>毎年、目標を掲げ、理念を策定している。地域の方とのAED使用、救命の勉強会の案内なども行いながら、共に暮せるようにしている。</p>	<p>地域に信頼されるホームとなるよう取り組む。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を意識し、申し送り、カンファレンスでも話し合いをしている。</p>	<p>管理者と職員が同じように意識できるよう、意思疎通を図る。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の開催、お便りの提示、町内会への参加を行い、理解していただけるようにしている。掲示板を利用し、ホームの様子を伝えている。家族・町内会の方に運営推進会議の参加により理解を深めて頂きたい。</p>	<p>掲示板を利用し、ホームの様子を伝えている。家族・町内会の方に運営推進会議の参加により理解を深めて頂きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩、外出時に挨拶や声掛けを行い努めている。</p>	<p>気軽に立ち寄っていただけるような付き合いができるように接していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に参加しており、交流に努めている。法人の行事も地域の人に参加して頂いている(夏祭り等)。利用者は重度化が進み、町内行事には参加できなくなっているが、できるだけ参加したい。</p>	<p>利用者は重度化が進み、町内行事には参加できなくなっているが、できるだけ参加したい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>救急救命講習のご案内を行ったが、他は行えておらず。事業所での勉強会の中で役立つような内容を伝えたり、参加できるよう検討したい。</p>	<p>事業所での勉強会の中で役立つような内容を伝えたり、参加できるよう検討したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価により、日常の振り返りを行う機会とし、評価結果を今後のケアの参考としている。課題となっているが、まだ行えていない項目が実施できるよう取り組んでいきたい。</p>	<p>課題となっているが、まだ行えていない項目が実施できるよう取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催し、早めにお知らせしているが、参加者が少なく、意見は可能な限り活かすようにしている。</p>	<p>会議参加者を増やせるよう工夫しながら取り組みたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>実践報告・事例発表の機会を利用しながら報告し、取り組んでいる。</p>	<p>報告の機会を見つけ、継続する。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在対象となる利用者はいないが、研修会等に参加している。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会で行ったり、日々、各自が自覚と責任を持ち努めている。カンファレンスでも話し合い、防止に努めている。</p>	<p>研修・勉強会等で意識を更に高めたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>見学・契約時に時間をとって説明し、理解して頂いている。</p>	<p>契約時以外にも、必要に応じ、話し合う機会を設け、対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情があった時は、気持ちを汲み、検討し、相談するなどの対応をしている。		継続していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来訪時に報告している。お便りの発行。必要時には電話をしている。金銭管理は、小遣い帳で報告・確認し、年末に1年分の領収書を発行している。		継続していきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情があった際は、原因を分析し、検討しながら取り組んでいる。		継続していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス、申し送り時等を利用し、行っている。法人内での取り組み目標に取り上げ、行っている。		継続していきたい。意見の言い合える職場にしていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況に応じ、早番、遅番の時間を調整している。		できるだけ、調整していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動等では、利用者へのダメージを少なくするように配慮し、配置している。家族には報告しているが、利用者には混乱を避けるため報告していない。		継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内での研修・勉強会、また、法人外の研修にも希望者が参加できるよう配慮している。	今後も継続していきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	合同学習会による同一法人内での交流を図っている。ホーム長は区の連絡協議会・会議などに参加し、ネットワーク作りに取り組んでいる。	今後も継続していきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	休憩時間を確保するよう努めている。	今後も継続していきたい。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	年に2回の自己評価と面談の実施がある。その他にも、日常的に管理者とのコミュニケーションの機会は多い。	今後も継続していきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居に向けて、了解を得た上で、可能な限りあらゆる方向からの情報収集を行い、本人・家族との面談も必ず設けている。	今後も継続していきたい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	必要に応じて電話や面談を行っている。また、センター方式のアセスメントを活用し、理解に努めている。	今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に状況を伺い、アドバイスを行っている。		今後も継続していきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前になるべく見学していただくようにしている。環境に慣れていただけるよう、ご家族と相談しながらケアを行っている。		今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の意思を尊重し、尊厳を大切にしながら、家事作業・料理や話の中から教えを受けたり、学ばせて頂いている。		今後も継続していきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族来訪時、必ず近況報告をしている。必要時、電話連絡をし、本人を共に支える関係の構築に努めている。		今後も継続していきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	センター方式のシートの活用や、情報を収集して、入居者が安心してホームで生活できるよう支援している。		今後も継続していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の来訪などで、関係が継続している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に入居者一人ひとりの性格や個性を考慮し、ケアに努めている。		今後も継続していきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了後も必要に応じて訪問したり連絡を取っている。		今後も継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人の思いを大切にしているが、本人が思いを表現するのが困難な場合は、家族の意見も取り入れてケアしている。ケアプランも本人の思いや意向に沿ったものを心がけている。		今後も継続していきたい。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の情報収集をできる限り行い、これまでの生活の把握に努めている。また、家族来訪時にお話を伺ったりしている。		今後も継続していきたい。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	暮らしの現状・問題点等は、定期的カンファレンスを行い、職員が意見を出し合い、現状の把握に努め、変化時はケアプラン第2、3表に反映させている。		今後も継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員全員で思いや気づきを話し合い、適切なケアについて模索している。その後、各担当者がケアプランを作成し、介護支援専門員がアドバイスを行っている。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現在のプランを月1回のカンファレンスで討議し、評価している。また、入院・転倒その他で状況が変われば、その都度プランを修正あるいは作り直し、介護支援専門員にチェックしてもらっている。とりわけ担当スタッフ 介護支援専門員 管理者の連携を強化し、状況の変化に細かく対応した介護サービスを提供していきたい。		とりわけ担当スタッフ 介護支援専門員 管理者の連携を強化し、状況の変化に細かく対応した介護サービスを提供していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録の他に、温度板、健康管理ファイル、連絡ノート等で情報を共有し、ケアの統一および向上に努めている。		1月より介護記録と健康管理ファイルを改訂し、より見やすく、分かりやすいものとした。記録物は今後も形式・内容両面を検討し、より良いものにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者や家族の状況により、受診時は付き添ったり、車を用意したりと対応している。家族の希望で24時間の付き添いがついている入居者もいるが、付き添いさんとの連携を取り、入居者の安全を守っている。		今後もより柔軟な対応・支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会活動への参加、講習会や査察を通しての消防署との関わり、などを行っている。		今後はボランティアの導入や、1階の保育所の子供たちとの合同の行事など、地域資源の活用を検討していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	以前は同一建物内の他事業所(認知症対応型通所)と共同で敬老会やクリスマス会など行事を行っていたが、昨年11月に事業所が移転して以来、他のサービス利用の支援はしていない。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	とくに協働はしていない。		権利擁護等に関し、地域包括支援センターが主催する勉強会・研修会があれば、積極的に職員を参加させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療の際には必ずスタッフまたは看護師がつき、日常の様子や特変などを伝えられている。医療機関を受診される場合は、家族もしくはスタッフが付き添う。そのさい、必ずDr. への手紙を用意し、必要な情報を口頭のみならず文書でも伝えるようにしている。		今後も継続していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医の指示や家族からの希望があれば、対応している。		今後も継続していきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が常勤している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、ホームでの状況を伝える介護添書を用意し、入院中は病棟でのカンファレンスに参加するなど病状の把握に努め、早期退院に向け動くようにしている。		入居者が退院して戻ってこられた際、ホームでの生活に支障がないよう、スタッフが入院中に面会に行き、必要な情報を取ってスタッフ全員で共有している。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	経験がないため、まだ確固たる方針は確立されていないが、常に主治医や家族と話し合いを持ち、方向性については機会のある時に全員で話し合っている。		今後は方針の大枠を決めた上で、個別のケースについて都度話し合いを持ち、対応していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	カンファレンス等の機会において、「できること、できないこと」は話し合っている。		入居者の高齢化が進んでいる為、重度化や終末期に備え、チームでの支援として何ができるかを検討し、課題を明確にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えにあたっては、事前に家族やケア関係者への十分な説明と情報提供を行い、本人が不利益をこうむることのないよう気をつけている。また、必要な基本情報はすべて介護添書に記載している。</p>		<p>スムーズな住み替えを実現するため、必要十分な情報を提供しよう今後も努めている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に個人情報保護を考え、声掛け対応している。また、介護記録や新聞などではイニシャルを使うなど、実名を出さないよう配慮している。</p>		<p>プライバシーを保護することは、利用者の尊厳を守ることに繋がるので、今後も続けていきたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>どこに行くのか、何をしたいのかなど、常に本人の意思を確認した上で介助するよう心掛けている。</p>		<p>自己決定の支援は、介護の基本原則のひとつである。今後もそのことをスタッフに周知徹底し、チームとして取り組んでいきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>大まかな生活のリズムはスタッフが作っているが、そのことに気づかれぬよう、あくまで入居者の希望を伺いながら生活を組み立てていく。</p>		<p>業務優先、あるいはスタッフの都合で入居者を動かすことのないよう、スタッフ間で常に注意を喚起していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>整容に対する支援は行っている。理容・美容については、希望の美容室に行かれたり、訪問美容を利用されたりと、人によってさまざまだが、車の手配や予約など、必要に応じてスタッフが支援している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>楽しく食事ができるよう、スタッフがさりげなくサポートしている。また、下準備や盛り付け、食器拭きなどは、状況にあわせ、できる範囲で手伝ってもらっている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、お酒やタバコを飲まれている方はいない。アクティビティとして、各入居者に合ったカルタ、絵合わせ、風船バレー等をしている。		今後も継続していきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	食前・食後の声掛け、時間誘導、下剤調整などして対応している。		今後も継続していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	各入居者に合った時間帯に入浴していただいている。夜勤帯での入浴は現在ないが、対応は難しいと思われる。また、声掛けにも拒否が多いのが現実であり、入浴が必要と思われる入居者には、スタッフが交代して声掛けするなど対応している。		今後も継続していきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動(体操・散歩など)での心地よい疲労感のなか、午後からはゆったりとした時間作りを心がけ、安眠できるように考えている。		今後も継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食材を和えたり、食器を拭いたり、体操の声掛けなどできる事を大切にしながらのケアをしている。		今後も継続していきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方は金銭管理ができていないが、可能な方は家族の協力の下で所持している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のよい日は近隣の散歩など行っている。帰宅願望の強い入居者には、冬は寒さに弱いため、外ではなくホーム内に付き添う。		今後も継続していきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園や喫茶店、外食など、他の入居者や家族と共に出掛ける機会を作っている。		今後も継続していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があった時には、電話などの対応をしている。また、本人より希望が聞かれない場合でも、精神的に不安定だったり、家族の力が必要と感じた時は、電話をしている。事前に家族の了解は取っている。		今後も継続していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時は笑顔で挨拶し、お茶を提供しながら近況を報告したり、家族の思いを伺ったりしている。		今後も継続していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会などを行ったり、入居者の心身の状況を踏まえ、適切なケアを提供しており、拘束は行っていない。		今後も継続していきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的に施錠はしていない。ドアの開閉が分かるように、チャイムをつけ対応したり、帰宅願望や徘徊される入居者には付き添いを行っている。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	さりげなく所在確認、見守りを行い、夜間は睡眠を妨げないよう定時に巡回し、安全に配慮している。		今後も継続していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	フロア内は危険と思われる物は高所に上げる等で管理している。各入居者の居室内については、それぞれの状況に応じた対応をしている。		今後も継続していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	想定できるリスクを考え、勉強会、マニュアル等で対応し、勉強をしている。事故発生時は、報告書を書き、家族への報告をし、対応策を考える。食事時の薬の服用にも注意をしている。		今後も継続していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急連絡網の整備、研修会、講習会に参加し、事故発生に備えている。また、症状と対応方法のマニュアルがあり、確認している。		今後も継続していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の消防設備の点検の際に訓練を実施している。また、地域の方との交流を持ち、協力が得られるように心掛けている。		今後も継続していきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族来訪時に現在の精神的・身体的状況について説明し、今後予想されるリスクや対応について話をして理解を頂いている。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや排泄チェックで体調変化の把握に努めている。		スタッフ全員が記録の記入漏れがないように注意し、毎日の体調の状態を把握し、特変時には速やかに看護師に報告し、指示を受ける。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋の確認をし、服薬管理をしており、健康管理ファイルに一覧表を作成している。		とくに薬変更時には、入居者の状態の変化に気をつけて、薬の効用、副作用の理解を深めたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日健康記録をチェックし、便秘予防のため毎朝ヨーグルトを提供したり、各入居者別に腹部マッサージ、下剤調整等を行なっている。		入居者の状態に合わせた体操等も、取り組んでいきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、声掛け誘導し、口腔ケア・義歯洗浄を行っている。また、拒否がある時は、工夫して行っている。		今後も継続していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食全員の食事量や水分量を記録している。バランスの取れた食事を心掛けている。食事量が少ない時は、補食の配慮もしている。		今後も継続していきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルや関連資料を熟読し、手に触れる箇所(手すり、便座等)の消毒、手洗いの励行、定時のタオル交換を行っている。また、インフルエンザ予防接種は、スタッフ全員が受けている。		発生時には、うがいやマスクの使用も徹底していく。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の学習会を開催し、マニュアルも作成している。まな板等の調理器具の消毒や、食品を消費期限内に使用することも徹底している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前にプランターを設置し、花壇に花を植えている。建物の前の掲示板に「すぎの子の家新聞」を掲示し、近隣の人々に親しんで頂くよう工夫している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>動物番組・音楽番組のビデオを見たり、入居者とスタッフが共同で作成した作品を飾り、和やかな空間を演出している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間から離れたベランダ前に椅子を設置し、休憩や団楽に使用できるよう配慮している。</p>	<p>入居者の不穏時や他入居者とのトラブルの際の避難場所としても利用する。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>機能性に配慮しながら、入居者の使い慣れた家具・調度品を設置し、居心地のよい居室作りに努めている。</p>	<p>入居者の精神的・身体的状況や、その変化に合わせて、使いやすい居室空間になるよう努めていく。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居間や居室・浴室等は、常時換気扇を使用。居間や居室の暖房は、入居者の希望の応じ調整している。また、冬期は濡れタオルを干すなど、湿度調整にも配慮している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下やトイレ・浴室には手すりがあり、必要時に使用している。浴槽には滑り止めマットを使用している。</p>	<p>建物の改築は困難なため、入居者の見守りや介助等を強化させたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>コミュニケーションが困難な場合もあるが、スタッフが積極的に仲介することで大きなトラブルを回避している。</p>	<p>申し送りやカンファレンス等でスタッフ間の連携を深めていく。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前のベンチ等を使用し、お茶を飲んだり花を眺めたり、談笑したりして気分転換を図れるように配慮している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

厳しい管理者の指導の下、スタッフは常により良いケアを模索し、日々業務の見直しと改善に取り組んでいます。フロア内での勉強会を積極的に催し、スタッフのレベルアップを図っています。